

平成28年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	市バス・地下鉄における「IC定期券」及び「ICカードによる乗継割引」の導入		
予 算 額	1,618,921 千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	営業推進室(863－5061)		
【事業実施に至る経過・背景など】 京都市バス及び地下鉄においては、これまでから全国10種の主要なICカードを利用いただける全国相互利用サービスや、市バス・地下鉄の利用額に応じた割引サービスを提供し、お客様の利便性向上に努めてきた。 【事業概要】 更なる利便性向上とICカードの普及促進を図るため、平成29年4月のIC定期券及びICカードによる乗継割引サービスの開始に向け、平成28年度はシステム改修や運用試験等を実施する。 1 導入するサービス ・ICOCAカードによる定期券サービスの導入 市バス通勤フリー定期券、地下鉄定期券（駅間指定） 市バス・地下鉄連絡定期券、地下鉄・近鉄（又は京阪）連絡定期券 など ・PiTaPaカードによる定期券相当割引サービスの導入 登録区間内の1箇月の御利用額が、同区間の定期券額を下回った場合は実際の御利用額を、上回った場合でも定期券額をお支払いいただくサービス ・ICカードによる乗継割引サービスの導入 バスからバス又はバスから地下鉄（地下鉄からバス）への連続乗車の際に、2乗車目から運賃の一定額を自動的に割り引くサービスを導入する。 *対象となるICカード：PiTaPa、ICOCAなど、全国相互利用対象の10種の交通系ICカード *バスについては、市バスと京都バスが対象 2 年次計画 平成28年度 システム改修、運用試験等 平成29年4月 運用開始（予定） 3 総事業費 約16億2千万円 【参 考（他都市の状況・事業効果など）】			

平成28年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	IC対応型多機能インターホンの新設など 地下鉄におけるIC対応化の促進		
予 算 額	1,006,470 千円	新規・継続の別	新規・継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	高速鉄道部 電気課(863－5277), 運輸課(863－5223)		
[事業実施に至る経過・背景など] 京都市地下鉄においては、平成19年4月から交通系ICカード「PiTaPa・ICOCA」の運用を開始し、平成25年3月には全国10種の主要なICカードを御利用いただける全国相互利用を開始した。また、市バスにおいても、平成26年12月からICカードの運用を開始した。さらには、平成29年4月にIC定期券及びICカードによる乗継割引サービスの導入を予定する等、お客様の利便性向上とICカードの普及促進に取り組んでいる。			
[事業概要] ICカードをより便利に、より快適に御利用いただくため、平成28年度は、地下鉄の駅における全ての自動改札機のIC対応化を完了させるとともに、全駅にICカードチャージ及び4箇国語表示機能付きの券売機・精算機を設置する。 また、全ての改札口においてICカードのエラー処理を可能とするため、平成28年度からの3年間で、全ての無人改札口に、駅務室からの遠隔操作が可能な「IC対応型多機能インターホン」を新設する。導入する機器は、改札口側と駅務室側双方にカメラ及びモニターを備えたものとし、聴覚に障害のある方との筆談や、地図を示しての案内等にも活用する。			
1 無人改札口への「IC対応型多機能インターホン」の新設【新規】 平成28～30年度の3年間で、全無人改札口（7駅、9改札口）へ設置する。 平成28年度 京都駅、四条駅の4改札口に設置 平成28年度予算額 63,072 千円			
2 地下鉄駅の全改札機のICカード対応化【継続】 平成28年度中に20台を機器更新し、全ての改札機のICカード対応を完了する。 （平成27年度末時点で、改札機全187台のうち、167台がIC対応済み） 平成28年度予算額 255,438 千円			
3 ICカードチャージ及び4箇国語表示機能付き券売機、精算機の全駅設置【継続】 平成28年度中に21駅へ設置し、全駅への設置を完了する。 （平成27年度末時点で、全31駅のうち、10駅設置済み） 平成28年度予算額 687,960 千円			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

平成28年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	車両ヘッドライトのLED化など 市バスの安全運行の推進		
予 算 額	47,181千円	新規・継続の別	新規・継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	自動車部運輸課(863－5123), 技術課 (863－5153)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
京都市では、輸送の安全は交通事業者の最大の使命であるとの認識のもと、各市バス運転士のキャリアや運転特性に応じたきめ細かな安全運転研修を実施するとともに、市バスの安全性及び定時性に影響を及ぼす違法駐停車の解消に向けた指導啓発を実施するなど、これまでから安全運行を徹底するための様々な取組を推進している。			
[事業概要]			
平成28年度は、引き続き、全運転士に対する安全運転研修や違法駐停車の解消に向けた指導・啓発を実施するとともに、夜間運行時の安全性を向上するため、新たに、市バス車両のヘッドライトをLED化する。			
1 市バス車両ヘッドライトのLED化による視認性の向上（33,360千円）【新規】 夜間運行時の視認性を向上させ、安全性を高めるため、既存の市バス車両のヘッドライトをLED化する。			
2 事故防止専門コンサルタントによる全運転士への安全運転研修（4,860千円）【充実】 近年の有責事故の発生傾向等を踏まえたうえで、運転士同士が一緒に事故原因や予防策を考えることにより、安全運転の意識及び技能向上を図るため、事故防止の専門コンサルタントによるグループワーク重視の安全運転研修を全運転士を対象に実施する。			
3 違法駐停車解消に向けた指導・啓発（8,961千円）【継続】 バス停付近の違法駐停車の解消に向け、市内中心部（四条通、河原町通、京都駅周辺）のバス停留所付近において、「事故防止重点強化策」として、重点的かつ継続的に違法駐停車への指導・啓発活動を実施する。			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

平成28年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	浸水対策の強化など 地下鉄の安全対策の充実		
予 算 額	79,587千円	新規・継続の別	新規・充実
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	高速鉄道部 技術監理課(863-5216), 運輸課(863-5223)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
京都市地下鉄では、安全は交通事業者の最大の責務であるとの認識のもと、これまでから、お客様の多い京都、四条、烏丸御池の3駅への可動式ホーム柵の設置や防犯カメラの拡充など、厳しい経営状況の中でも、地下鉄の安全対策の充実に努めてきた。			
[事業概要]			
平成28年度は、新たな安全対策の取組として、昨今のゲリラ豪雨等の多発を踏まえて浸水対策の強化に着手するとともに、烏丸線ホームの更なる安全対策として、ホーム端への注意喚起ラインを設置する。			
1 浸水対策の強化(52,371千円)【充実】			
地下鉄では、浸水対策として、100年に一回程度起こり得る豪雨時に50cm以上の浸水が想定される駅出入口や、地形上浸水の可能性が高いと判断した出入口に止水板を設置するとともに、その他の出入口には土のうを配備してきた。			
この度、昨今のゲリラ豪雨が多発する状況を踏まえ、浸水想定的前提となる降雨量を引き上げることとし、これに伴い、新たに50cm以上の浸水が見込まれることとなる駅出入口など、12駅31箇所の駅出入口を対象に、平成28年度から31年度までの4年間で、国の補助制度を活用して止水板の設置や補強を行う。			
平成28年度は、6駅11箇所に止水板を設置			
(参考) 全体事業費(28~31年度) 約1.6億円			
2 烏丸線駅ホーム端への「注意喚起ライン」の設置(27,216千円)【新規】			
平成28年度に、ホーム柵が未設置の烏丸線12駅全てに、ホームの先端に人目を引く注意喚起ラインを設置し、安全対策の強化を図る。			
(参考)「注意喚起ライン」の他事業者(関西圏)の設置状況			
JR西日本、近鉄、神戸電鉄等で導入			
[参 考(他都市の状況・事業効果など)]			

平成28年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	魅力あるバス待ち環境の創出		
予 算 額	171,588 千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	自動車部 技術課（863－5154）		
[事業実施に至る経過・背景など]			
京都市では、バスを待たれるお客様へ快適なバス待ち環境を提供するため、バス停への上屋、ベンチ及びバス接近表示器の設置を推進することはもとより、歩道が狭いなどの理由からバス停設備の設置が困難な場所においても、地域や民間事業者の皆様の御協力のもと「バスの駅」を設置するなど、積極的にバス待ち環境の向上に取り組んでいる。			
[事業概要]			
平成28年度は、新たに予算措置を行い上屋の整備に取り組むとともに、引き続きバス接近表示器や「バスの駅」の設置を推進する。また、バス停の視認性等を高めるため、ソーラー式バス停照明の設置数を大幅に増加する。			
1 バス停上屋の整備（60,620千円）【充実】			
バス停上屋については、平成21年度以降、民間活力を導入して広告付き上屋を整備してきた。平成28年度は、新たに予算措置を行い、広告付き上屋が設置できないバス停へ上屋を25基整備する。			
2 バス接近表示器の整備（82,080千円）【継続】			
バス接近表示器については、バス停のインターネット環境を活用するモニター型接近表示器を用いて、平成26年度から28年度までの3箇年で、設置要件を満たす約500箇所のうち未整備であった約200箇所全てに整備することとしている。平成28年度は、80箇所へ設置し、目標とした約200箇所の整備完了を目指す。			
3 「バスの駅」の設置（20,000千円）【継続】			
地域・民間の皆様の御協力により、バス停に近接する土地等を無償で提供していただき、バス待ちスペースを整備する「バスの駅」については、平成25年度の事業開始後、コンビニエンスストア（サークルK）との連携も含め27箇所（平成28年1月末現在）に設置しており、平成28年度は10箇所以上の設置を目指す。			
4 ソーラー式バス停照明の設置（8,888千円）【充実】			
バス停照明については、コスト面に配慮しつつ、電源の確保が困難なバス停における夜間の視認性及び安全性を向上させるため、平成25年度から27年度までの3箇年で、ソーラー式バス停照明を90基設置した。平成28年度は、設置スピードを大幅に向上させ、年間100基の設置に取り組む。			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

平成28年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	駅ナカビジネスの積極的展開		
予 算 額	654,000 千円	新規・継続の別	新規・継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規 充実予算枠
担 当 課	営業推進室（863－5068）		
[事業実施に至る経過・背景など]			
「駅ナカビジネス」は、地下鉄駅の魅力や利用者の利便性を向上させ、増収増客及び駅や駅周辺地域の賑わいの創出に寄与することから、これまでから積極的に取り組んできた。 平成30年度に駅ナカビジネス収入を10億円とすることを目指し、平成27年度には、コトチカ御池を拡充したほか今出川駅店舗を開業するなど、着実に取組を進めている。			
[事業概要]			
平成28年度は、同年度中のコトチカ京都の増床エリアの開業を目指して、昭和56年の京都駅開業以来初めて南改札口付近の大規模改修を行う。これにより、新たに約320㎡、既存のコトチカ京都と合わせて約1,000㎡の店舗区画を創出する。併せて、バリアフリー化を推進し、お客様の更なる利便性向上を図るため、20人乗り大型エレベーターを新設するほか、トイレをリニューアルする。 また、5箇所目となる駅ナカ商業スペース「コトチカ北大路」の整備に向けて、設計を行う。			
○コトチカ京都増床工事【継続】			
(予算額：645,000 千円)			
1 所在地 下京区東塩小路町			
2 店舗面積 約320㎡（既存面積と合わせ約1,000㎡）			
3 店舗数 7店舗（既存店舗と合わせ16店舗）			
4 開業予定 平成28年度			
○コトチカ北大路整備に向けた設計【新規】			
(予算額：9,000 千円)			
1 所在地 北区小山北上総町			
2 規 模 設計により確定			
3 開業予定 平成29年度			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			
平成19年度に年間5千6百万円であった駅ナカビジネスの収入は、コトチカの展開をはじめとする多彩な取組により、平成26年度決算では8億円になった。			